

This Page Is Inserted by IFW Operations  
and is not a part of the Official Record

## BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

**IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.**

**As rescanning documents *will not* correct images,  
please do not report the images to the  
Image Problem Mailbox.**

(19) 日本国特許庁

## 公開特許公報

特許

昭47.11.27

特許庁長官殿

発明の名称 ニヨクヒヨウシングルドット方式

発明者

コダイランショウスイポンチヨウ  
 東京都小平市上木本町1450番地  
 株式会社 日立製作所武蔵工場内  
 ハツカノヨシカズ  
 初見野凱一

特許出願人

東京都千代田区丸の内一丁目5番1号  
 株式会社 日立製作所  
 吉山博吉

代理人

東京都千代田区丸の内一丁目5番1号  
 株式会社 日立製作所内  
 電話東京 270-2111(大代表)  
 (7237) 井理士 鹰田利



47 118074

## 明細書

発明の名称 液晶表示装置の駆動方式

## 特許請求の範囲

共通の第1電極と、複数の第2電極と、上記第1電極と第2電極との間に挿入され、かつ所定の電位差を境にして視覚的に状態が変化する液晶と共に、上記複数の第2電極のうち選択された第2電極と上記第1電極との間に、それらの間に挿入された液晶の状態が視覚的に変化するに十分な電位差を与え、両者の電極に加えられた電位の中間電位をその他の第2電極に加え、上記中間電位と上記第1電極に加えられた電位との電位差を上記その他の第2電極と上記第1電極との間に挿入された液晶の状態を視覚的に変化させない程度の量に設定したことを特徴とする液晶表示装置の駆動方式。

## 発明の詳細な説明

本発明は機械的には液体の性質を持つが光学的には固体(結晶)の性質を持つような液晶表示装置の駆動方式に関するものである。

(1)

⑪特開昭 49-77537

⑬公開日 昭49.(1974) 7.26

⑭特願昭 47-118074

⑮出願日 昭47.(1972)11.27

審査請求 未請求 (全7頁)

府内整理番号

⑯日本分類

7323 56 97(7)B4

7013 54 101 E5

液晶表示装置は専にその消費電力が少ないとから電池駆動の電子式腕時計や電子式小型卓上計算機などに利用されてきている。

液晶表示装置の物理的動作モードとしては動的散乱モード(DSM)或は電界効果モード(MEM)などが知られており、光学的動作モードとしては反射型、透過型、吸収型などが知られている。

本発明このいづれにも共通に適用できるものである。

ここではDSM反射型を例にとつて説明する。このDSM反射型液晶表示装置は、対向する2つの電極に液晶を挿入しそれらの間に電圧を加えると初め一定方向に配列されていた液晶の分子が不規則に配向され、それによつて入射光が散乱され液晶が透明な状態から半透明(白濁)な状態に変化せられるという動的散乱モード(dynamic scattering mode)と言われる現象を利用したものである(このような液晶表示装置の構造や現象は例えば次のようない文獻に記せられている)。

Electronics July 6, 1970, P. 64~P. 70;

(2)

このような液晶表示装置の駆動回路を設計するにあたつては次の点に気を付けなければならない。

例えば、1つの共通電極（行電極）に対して所定の数字を表わすことができるように形状に配置された複数のセグメント電極を選択したセグメント型の液晶表示装置においては、選択されないセグメント電極に対する液晶が選択されたセグメント電極に加えられた電圧によって散乱を引き起こしそれによつて数字がじんじんで表示されるという問題を避けるなければならない。

従つて、本発明の目的はこのような問題を改善することができる液晶表示装置の駆動方式を提供する。

上記目的を達成するために、本発明においては、液晶表示装置として、視覚的しきい値電圧  $v_{th}$  が存在するような液晶表示装置を用い、そのしきい値電圧の存在を利用して前述した問題を改善することを特徴としている。

(3)

はしきい値電圧  $v_{th}$  よりも小さくされる。

このような液晶表示装置の駆動方式によれば、選択されたセグメント電極とその他のセグメント電極との間には電位差  $|v_H - v_L|$  或は電位差  $|v_H - v_M|$  が加わるのみで、 $|v_H - v_L|$  のような大きい電位差が加わらないためセグメント電極間の電位差による液晶の視覚的状態の変化を防止することができ、しかも、従来のマトリクス型液晶表示装置の駆動回路（日経エレクトロニクス 1972年5月8日号 P.32~P.43）で問題になるようなクロストークを防止することができる。

本発明および本発明の他の目的は図面を参照して以下の説明から明らかとなるであろう。

第2図は本発明による液晶表示装置の駆動方式に従つて構成された駆動回路を示している。

同図において、LCDは液晶表示装置であり、この記号の内部構造を示しており、上側の電極は共通電極であり、下側の複数（一組）の電極は所定の文字、数字などを表わすことができるよう配線されたセグメント電極である。

(5)

すなわち、液晶には印加電圧によつて該々との視覚的状態が変化するものと第1図の特性図に示すように、ある一定の印加電圧を境として視覚的状態が変化するもの、言い換えれば視覚的しきい値電圧があるものとが知られており、後者の液晶表示装置は、例えば Applied Physics Letters Vol.12, No.10, P.391~P.393の文献や前述した文献「トランジスタ技術」や大日本塗料株式会社で市販している液晶表示装置（製品名LCD-1）のカタログなどに載せられている。

本発明においては後者の液晶表示装置を利用する。

本発明の実施例によれば三種レベルの電圧源が  $v_H$  ( $v_H, v_M, v_L$ ) が用意され、選択されたセグメント電極と共通電極との間に電位差  $|v_H - v_L|$  が与えられ、選択されたかつたセグメント電極には電位  $v_H$  と電位  $v_L$  との中間電位  $v_M$  ( $v_H > v_M > v_L$ ) が与えられる。

電位差  $|v_H - v_L|$  はしきい値電圧  $v_{th}$  よりも大きくされ、電位差  $|v_H - v_M|$  或は電位差  $|v_M - v_L|$

(4)

$v_M$  はドナーチャンネル遮蔽ゲート型電界効果トランジスタ（以下トランジスタといふ）であり、 $v_L$  はドナーチャンネルトランジスタである。トランジスタ  $M_1, M_2$  は相補回路を構成しており、各々のソース電極は電圧源  $v_H, v_L$  に接続され、それぞれのゲート電極には共にセグメント選択信号  $S_i$  が加えられている。

液晶表示装置 LCD の共通電極には高電位  $v_H$  が加えられており、複数のセグメント電極のうち1つのセグメント電極にはセグメント信号  $S_i$  で駆動される相補回路の出力信号が加えられている。

電圧  $v_H, v_M, v_L$  の関係は第2図(2)に示すようになつており、それぞれの値は次の不等式を満足するように定められている。

$$|v_H - v_L| \geq v_{th}, |v_H - v_M| < v_{th}$$

次にこの回路の動作を説明する。

今、セグメント選択信号  $S_i$  が '1' (正電位) になつて画面の左端のセグメント電極を選ぶとき、トランジスタ  $M_1$  が導通してそのセグメント電極には低電位  $v_L$  が加わり、それに対応する液晶が

(6)

亂を引き起こす。

一方、このセグメント電極を選択しないときは、セグメント選択信号が '0' ( 接地電位 ) になりトランジスタ  $M_3$  が導通する。従つて、このセグメント電極には中間電位  $V_M$  が加わり、それに対応する液晶は散乱を引き起こさない。

同様に、他のセグメント電極にも選択されたときは低電位  $V_L$  が与えられ、選択されないときは中間電位  $V_M$  が与えられる。

従つて、選択されたセグメント電極と選択されないセグメント電極との間には電位差  $|V_M - V_L|$  が加わるだけで、セグメント電極間に選択されたセグメント電極と共通電極間の電位差  $|V_H - V_L|$  がそのまま加わるということがなくなり、その差は小さくされ前述した問題が改善される。

第3回(a)は本発明による液晶表示装置の駆動方式を説明するための駆動回路の他の実施例を示している。

同図の回路の第2回(a)のそれと大きく異なる点は液晶の寿命を長くするために液晶を双方向にす

(7)

ート電極には共に双方向駆動パルス BD が加えられているので、結果このセグメント電極と共通電極との間には双方向駆動パルス BD に同期して  $|V_H - V_L|$  のレベル差を持つ交流パルスが加わる。すなわち、第3回(b)のタイムチャートからもわかるように、ある期間に共通電極への印加電圧  $V_C$  が  $V_H$  でセグメント電極への印加電圧  $V_{S1}$  が  $V_L$  ( 接地電位 ) となり、次の期間にはこの関係が逆になつて(すなわち極性が反転する)  $V_C = V_L$ ,  $V_{S1} = V_H$  となる。この場合それらの間にあらゆる液晶が散乱を引き起こすということはいりません。 $( |V_H - V_L| \geq V_{th} )$ 。

左端のセグメント電極を選択しない場合、セグメント選択信号  $S_1$  は '0' となり AND ゲート AG と OR ゲート OG のゲートが閉じトランジスタ  $M_3$ ,  $M_4$  のゲートレベルは、双方向駆動パルス BD に關係なく、それぞれ '0', '1' となり、トランジスタ  $M_3$ ,  $M_4$  と共に導通する。このときこの相補回路は分圧器を構成しセグメント電極にはその分圧電圧  $V_M$  が與えられる(第3回(b)の  $V_{S1}$  を参照)。

(8)

特開昭49-77537 (3)

なわち液晶を交差で駆動しているところである。これは液晶に直流分が加わると液晶が分画しその寿命が短くなるからである。

同図においてヨリはそのような双方向駆動を行なうための双方向駆動パルスであり、直並にトランジスタ  $M_3$ ,  $M_4$  のゲート電極と、インバータ回路 INH<sub>1</sub>, AND 回路 AG, OR 回路 OG を介してトランジスタ  $M_3$ ,  $M_4$  のゲート電極に加えられている。また AND 回路 AG と OR 回路 OG の他の入力端子にはそれぞれセグメント信号  $S_1$  とその反転信号が加えられている。

上側の相補回路の出力電圧は共通電極に供給され、下側の相補回路の出力電圧は 1 つのセグメント電極に供給されている。

次にこの回路の動作を説明する。

左端のセグメント電極を選択するとき、セグメント信号  $S_1$  は '1' になり AND ゲート AG と OR ゲート OG のゲートが開かれてトランジスタ  $M_3$ ,  $M_4$  のゲート電極には共に双方向駆動パルス BD の反転信号が加わる。一方トランジスタ  $M_3$ ,  $M_4$  のゲ

(8)

この分圧電圧  $V_M$  を

$|V_H - V_L| < V_{th}$ ,  $|V_M - V_L| < V_{th}$   
となるようにしておけば、このセグメントに対応する液晶は散乱を引き起こさない。この場合共通電極は双方向駆動パルス BD に同期して  $V_H$  と  $V_L$  の値をとつてるので、液晶に直流分が加わらないようにするために、中間電位  $V_M$  を次のように設定するかまたはそれに近づけるようにした方が好ましい。

$$V_H - V_M = V_M - V_L, \therefore V_M = \frac{V_H + V_L}{2}$$

以上の動作を要にまとめれば次のようになる。

(表)

$S_1$	BD	$V_{S1}$	$V_C$
'1'	'1'	$V_H$	$V_L$
'1'	'0'	$V_L$	$V_H$
'0'	'1'	$V_M$	$V_L$
'0'	'0'	$V_M$	$V_H$

第4回(a)は本発明による液晶表示装置のダイナミック駆動回路であり、これは第3回(a)の回路を

消費電力の点で改善したものであり、次の二つた  
点が異なっている。

中間電圧  $V_M$  としてスイッチング素子による分  
圧器を使用せず別の電源を使用し、電源  $V_M$  と電  
源  $V_H$ ,  $V_L$  との間にスイッチング時に電流通路が設  
けられることのないようにするために、スイッチ  
ング時にトランジスタ  $M_1$ ,  $M_2$ , およびトランジ  
スタ  $M_3$ ,  $M_4$ , を第4図(d)に示すようなブランディング  
信号  $B_L$  で非導通にする。ブランディング信号  $B_L$   
のパルス幅はスイッチング時間より長くする必要  
があるが、必要以上に長くすると液晶の電極電位  
が長い間浮いた状態になるのでクロストークの問  
題が起りその点注意を要する。

第4図(b)および次の表に液晶表示装置の電極電  
位  $V_{C1}$ ,  $V_{S1}$  と信号  $D_T_1$ ,  $S_1$ ,  $B_D$ ,  $B_L$  との関係  
を示す。

(表)

$D_T_1$	$B_D$	$B_L$	$V_{C1}$	$S_1$	$B_D$	$B_L$	$V_{S1}$
'0'	'0'	'0'	$V_M$	'0'	'0'	'0'	$V_M$

03

$D_T_1$	$B_D$	$B_L$	$V_{C1}$	$S_1$	$B_D$	$B_L$	$V_{S1}$
'0'	'0'	'1'	$V_M$	'0'	'1'	'0'	$V_M$
'0'	'1'	'0'	$V_M$	'0'	'1'	'0'	$V_M$
'0'	'1'	'1'	$V_M$	'1'	'0'	'0'	$V_H$
'1'	'0'	'0'	$V_H$	'1'	'0'	'1'	$V_L$
'1'	'0'	'1'	$F_L$	'1'	'0'	'1'	$F_L$
'1'	'1'	'0'	$V_L$	'1'	'1'	'0'	$V_H$
'1'	'1'	'1'	$F_L$	'1'	'1'	'1'	$F_L$

$F_L$  : 浮いた状態 (floating potential)

以上、本実施例によればセグメント電極間には  
 $|V_H - V_M|$  および  $|V_M - V_L|$  の小さい電位差しか  
加わらず従つてセグメント電極間の大きい電位差  
による液晶の視覚的状態の変化を防止することができ  
、また液晶の寿命を長くすることもできるとい  
うことが前述した説明から理解されよう。

なお、本発明を実施例に沿つて説明したが本発  
明はこれらに限定されることなく種々の变形手段  
を採用することができる。

例えば、本発明はセグメント型の液晶表示装置  
のみならずマトリクス型のそれにも適用すること

04

ができ、また中間電圧  $V_M$  として時間的に電位が  
変化するパルスも前述した条件を満足する限り使  
用することができし、駆動回路の構成素子として  
单一チャンネルのトランジスタや反応トランジ  
スタ、受動素子なども利用できる。

#### 図面の簡単な説明

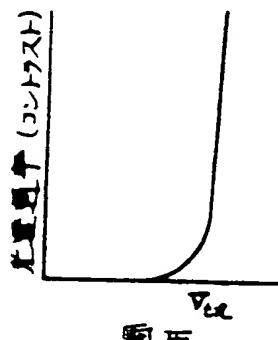
第1図は液晶の特性図である。第2図(a)に本發  
明による液晶表示装置の駆動回路、同図(b)はそれ  
に用いられる電圧源のレベルを説明するための図  
である。第3図(a)および第4図(a)は本發明による  
液晶表示装置の駆動回路、第3図(b)および第4図  
(b)はそれぞれの動作を説明するためのタイムチャ  
ートである。

LCD...液晶表示装置、 $S_1$ ...セグメント選  
択信号、 $B_D$ ...双方向駆動パルス、 $B_L$ ...ブ  
ランディング信号。

代理人 幸理士 鶴田 利

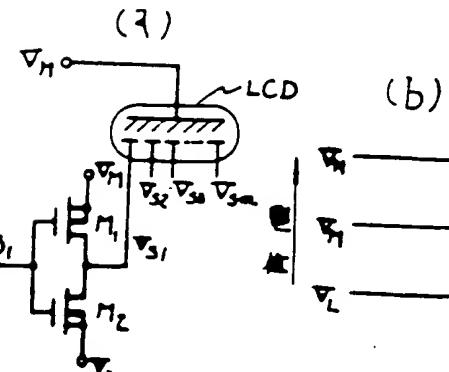
05

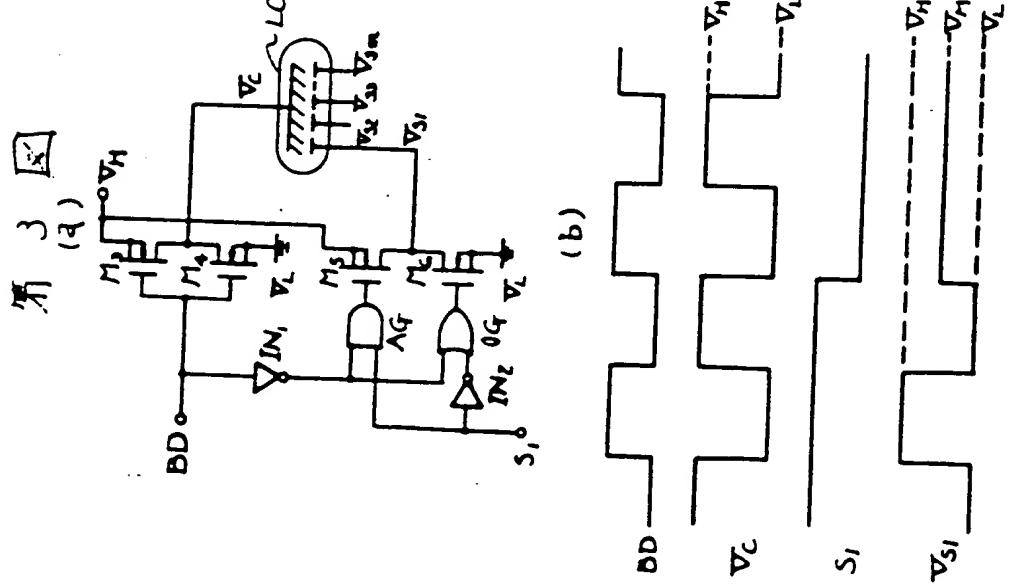
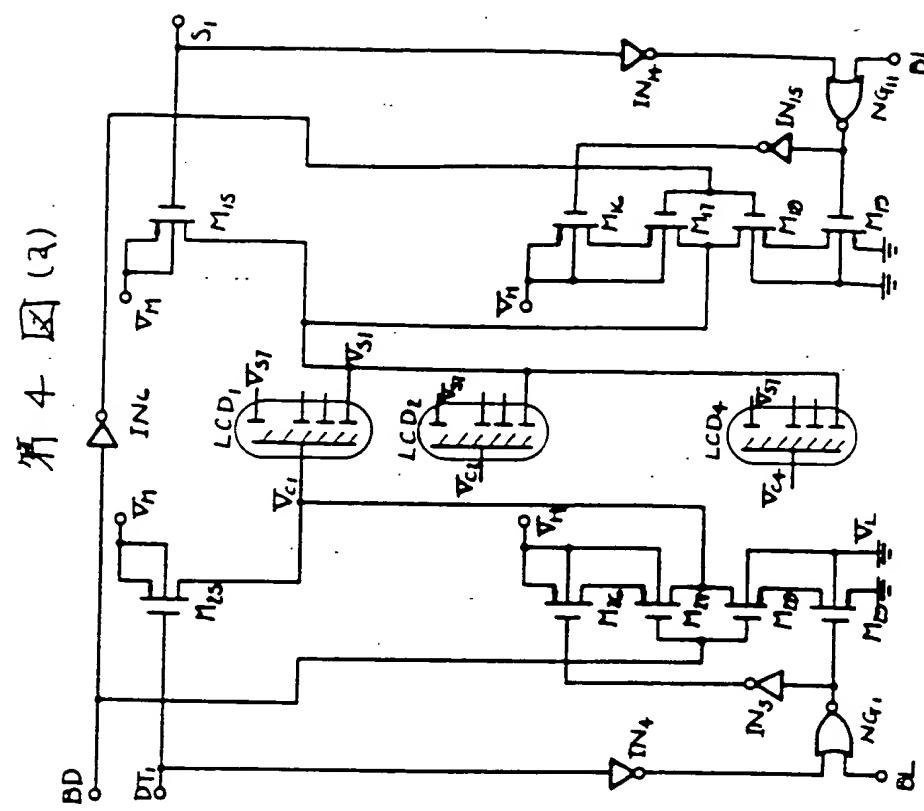
第1 図



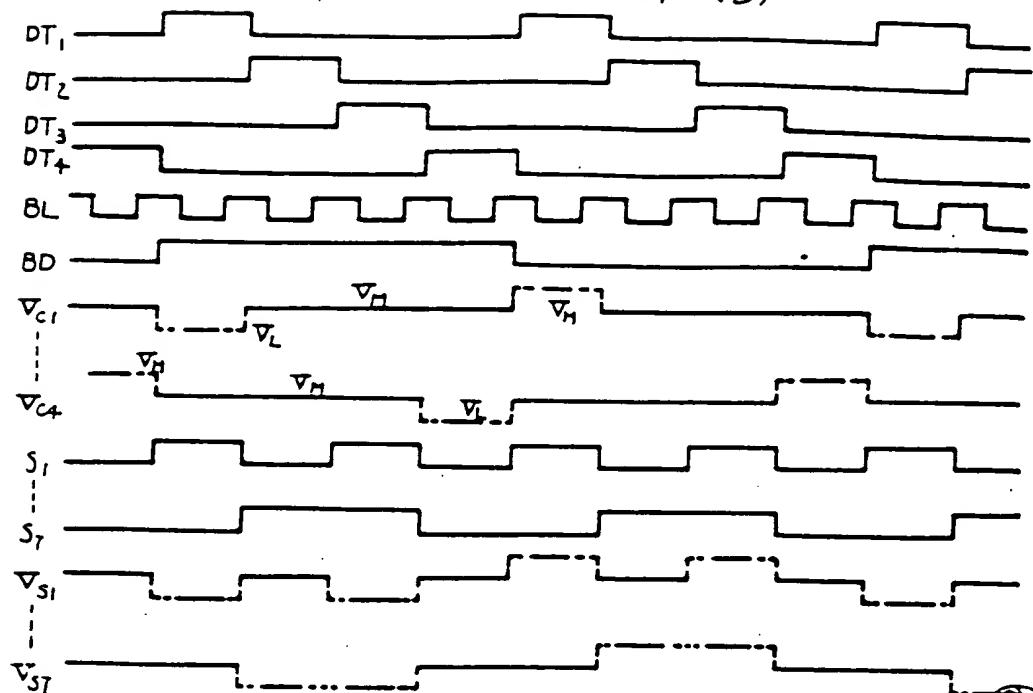
電圧

第2 図





第4 (b)



代理人 森田 利二

## 手続補正書(自発)

昭和48年3月14日

## 添附書類の目録

- (1) 明細書 1通  
 (2) 図 畫 1通  
 (3) 要 求 1通  
 (4) 特許登録文書 1通

特許庁長官殿

前記以外の発明者、特許出願人または代理人

事件の表示

昭和47年特許第118074号

発明者

発明の名称

液晶表示装置の駆動方式

発明者

補正をする者

特許上の関係 特許出願人  
名 前(310) 株式会社 日立製作所

代理人

居 所 東京都千代田区丸の内一丁目5番1号  
株式会社日立製作所内 (電話 東京 270-2111(大代表))  
名 称(7287) 弁理士 森田 利二

補正の対象

図に添付した図面

補正の内容

図面第4圖を別紙の如く修正する。

特許庁  
48.3.14  
審査課

第十四 (2)

